

健やか親子21取り組みのデータベースの再構築と研修会報告

葉袋 淳子 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座
山田 七重 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座
近藤 尚己 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座
武田 康久 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座
山縣然太郎 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座

本研究の一環として、2001年度より構築・運営してきた健やか親子21公式ホームページに搭載している「取り組みのデータベース」は、「地域に合致した情報（地域特性を考慮した情報）の利活用」を目指したものである。これは、研究班において独自に開発したもので、実際に利用する人々が利活用していくものとして構築したが、公開後1年間の経過の中で、運営側以外から入力されたデータは極めて少ない状況であった。この理由として、①データベースの重要性の普及が足りないこと、②情報を提供することの意味合いの理解が得られていないこと、③入力方法がわからないというオペレーティングの問題の3点が大きな課題として推測された。これらを改良するための方法を検討し実践してきた。まず、導入部分において、①取り組みのデータベースの精度向上を図る目的での、リニューアル、②各自治体母子保健関係者へ直接はたらきかけ、データベースの重要性、及び、必要性を周知してもらう目的での、全国各地域において研修会を開催した。次に、データベース管理側の体制において、①提供された情報を迅速に処理しWeb公開、②情報内容の充実を図る目的で、項目ごとに適切な内容であるかの確認、③利用者側からの使用に関しての問題発生時の対応、④データベース利用度の把握を行った。

以上により、取り組みのデータベースは、操作性の向上と啓発の活動によって、データの量質及びシステムの使いやすさの向上が図られ、2970件の情報を搭載し、利活用が充実しつつある段階に至っていると見える。各地域の母子保健担当者に「取り組みのデータベース」が浸透されつつある今、今後の発展に注目したい。

I. 研究の目的

健やか親子21公式ホームページは2001年5月にWeb公開し、搭載している「取り組みのデータベース」は研究班独自で構築し、同年10月に公開した。2003年10月にはリニューアル公開し、2004年3月現在は2970件の事業登録がされている。公開されている事業内容は、各地域の母子保健関係者が、ネットワークづくりの有用な手段のひとつになると考える。

現在に至るまでには、公開後の情報量の少なさから、利活用の充実までは望めない状況下、展開方法について検討を重ねてきた。まず、導入の部分として、母子保健担当者に本データベースの重要性の普及を図る目的での啓発活動の実践。平行して、データベース自体の精度向上を図る目的でデータベースを再構築し、リニューアル公開。次に、管理体制の充実を図る目的で、提供された情

報に対する迅速な対応。使用上の問題点への対応。また、担当者によるアクセス管理の実践を行ってきた。

その成果として、情報量の増加と内容の充実が図られた現段階は、各地域の母子保健関係者にとって、本データベースが有用なシステムとして位置付けられ、利活用において上昇段階にあるといえる。

本研究では、啓発活動の実践とデータベースのリニューアル、及び利用状況について報告することを目的とする。

II. 研究の方法

健やか親子21公式ホームページに搭載している「取り組みのデータベース」

(<http://rhino2.yamanashi-med.ac.jp/torikumi-doc/>) を2001年10月に公開し、山梨大学医学部保健学Ⅱ講

座にて管理している。本データベースの重要性、及び、必要性を各地域の母子保健関係者に周知してもらうための啓発活動と本データベースの精度の向上を図ること、及び、管理体制について、以下に示す。

1. 「取り組みのデータベース」の啓発活動

取り組みのデータベースの周知を図る目的と、現場の状況を把握する目的で、各地域においての「取り組みのデータベース研修会」を実施した。

地域の選出は、各研究班員が携わっている地域の担当者へのはたらきかけや学会を利用したインフォメーション。また、健やか親子21ホームページからのインフォメーションにより、希望のあった、山梨県・富山県・三重県・島根県・愛知県・青森県・福岡県・奈良県・北海道・栃木県、及び、日本理学療法士会、国立保健医療科学院、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会の計13箇所である（資料1.参照）。研修会の際、「取り組みのデータベースマニュアル」を作成し使用した。このマニュアルは、ホームページからダウンロードすることができる（資料2.参照）。

研修会は、希望のあった地域に出向き、主任研究者と他数名の班員を動員して実施した。研修会場には、説明用にプロジェクターを置き、参加者用に数台のパソコンを設置し、マニュアルに沿って進めた。時間は約2時間30分で、参加者が実際入力し登録する流れで、本データベースを体感してもらう。事業内容に関しては、事前に準備してもらい、研修会時に入力の実践と公開を行った。非公開情報に関しては、非公開としての処理を行い、公開できる時期に担当者操作で公開希望がだせるシステムになっている。

研修会終了時には、参加者全員に名前が入った修了証書を手渡し、アンケートを行った（資料1.参照）。

2. 「取り組みのデータベース」の精度向上

本データベースの全面的再構築を行い、2003年10月にリニューアル公開した。同年7月に、厚生労働省母子保健課から全国自治体に事業情報提供の呼びかけを行い、収集した情報2391件を掲載してのリニューアル公開となった。

データベースの再構築に際しては、最大のコンセプトは、操作の簡便性であった。また、活用性

の向上を図るために20項目の詳細検索画面を作成し、デザインの充実も図り視覚的に入りやすい画面にするなど、留意し構築した。

3. 「取り組みのデータベース」の管理

登録された情報は、管理者で確認してから公開するシステムである。確認する際は、項目ごとに不備がないかなど留意する。

各地域担当者が入力する際などに発生した問題は、e-mailにて通知してもらい、管理者が迅速に対応している。

利用状況を把握するための指標として、アクセス数を把握するシステムを整備している。このシステムでは、サーバ上で稼働しているプログラムが、常時アクセス状況を記録する。これらの記録を元に集計するプログラムを定期的に稼働させ、集計結果を閲覧できる場所に保存している。

III. 結果及び考察

1. 「取り組みのデータベース」の啓発活動

本データベースの利活用の向上を目的に行った取り組みのデータベース研修会とインフォメーションについて以下に示す。

A. 「取り組みのデータベース研修会」について

3年間の研究期間内で、研修会を開催した地域は11箇所であった。データベースマニュアルを作成したことにより、研修会の進行はスムーズであったと思われる。参加者一人一人が、実際パソコンを使用したことで、情報の提供方法と活用方法を体感でき、今後の更なる利活用の向上に繋がることが示唆された。

研修会終了後のアンケート結果から、参加者の100%が本データベースの重要性が理解できたと回答した。入力に関しては、90%以上の方が、ほとんどできたと回答し、スムーズな入力ができたとと思われる。今後、本データベースを活用したいと答えた人も90%以上におよび、研修会の効果があったといえる。また、それぞれの感想からは、楽しく学習できたという声が多かった。

今後の課題として、①IT化の地域による若干の格差、②情報提供の考え方の地域差、③情報活用の地域差、④次世代育成対策支援法への母子保健担当者の関わり方の違いが挙げられ、これらの改善法を提示していく必要がある。

イ. 本データベースインフォメーションについて
各研究班員による関係者へのはたらきかけと、学会においてのインフォメーションにより、研修会の希望を募ることができたことは、本データベースの利活用の発展に繋がったと思われる。

また、健やか親子21ホームページから、「取り組みのデータベースマニュアル」を自由にダウンロードできる仕組みを作っており、マニュアルを使いながら実践方法を学ぶことも、利活用の発展に繋がるとと思われる。

研究最終年として、冊子を作成した。

今後の課題として、マニュアルをダウンロードした数の把握ができると、活用度の正確な把握に繋がる。

2. 「取り組みのデータベース」の精度向上

本データベースの内容の充実を図る目的で行った情報の収集と、操作上の簡便さを追求して行ったデータベースの全面再構築、及び、その後の登録情報について以下に示す。

ア. 全国自治体からの情報収集

2003年7月には厚生労働省の母子保健課から全国自治体に情報提供の呼びかけを行い、その結果、1122の自治体から2391件の情報提供があった。実際のリニューアル後の画面に沿っての内容で情報を提供したため、充実したものとなった。

その後、新たに579件の情報が追加されている。都道府県別に情報数を下記に示す。

北海道	116	三重県	167
青森県	156	滋賀県	31
岩手県	0	京都府	0
宮城県	94	大阪府	59
秋田県	20	兵庫県	65
山形県	20	奈良県	34
福島県	130	和歌山県	83
新潟県	102	鳥取県	46
富山県	15	島根県	35
石川県	22	岡山県	71
福井県	59	広島県	66
茨城県	55	山口県	18
栃木県	26	徳島県	56
群馬県	28	香川県	46
埼玉県	4	愛媛県	4
千葉県	77	高知県	2
東京都	60	福岡県	11
神奈川県	209	佐賀県	90
山梨県	40	長崎県	112
長野県	79	熊本県	128
岐阜県	131	大分県	83
静岡県	93	宮崎県	45
愛知県	88	鹿児島県	66
		沖縄県	28

現在までの内容を課題別にみると、「こどもの安らかな発達促進と育児不安の軽減」が1,698件と最も多く、続いて、「健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ」が751件、「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」が611件、「妊娠出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」が464件、「小児保健水準を維持向上させるための環境整備」が348件であった。

今後の課題として、現在未登録の地域へのはたらきかけと同時に、情報提供に関する全国へのはたらきかけが必要である。

健やか親子 21 取り組みのデータベース

地域や団体の取り組み(事業)を検索・登録できるデータベースです。

キーワードを入力して下さい

キーワード(団体)検索

詳細検索

登録・修正

取り組み(事業)の登録はこちらから

子どもの発達段階の取り組みをしている地域は?

C使用の手引き

Dデータベースについて

メーリングリスト(ML)のご案内

E母子保健・医療情報データベース

スタッフが少ないけれど、どんな取り組みができるの?

全国の地域の取り組みを紹介したい!

みんなで作ってみんなが利用しましょう!

健やか親子21(母子保健の2010年までの国民運動計画)に関連して、都道府県、保健所、区市町村、医療機関および国民団体が取り組む母子保健サービスなどの取り組みのデータベースです。関係機関における健やか親子21の進捗状況を把握するとともに、これを利用して、市町村等関連機関の連携を深め、健やか親子21推進に役立てることを目的としています。

新規入力(団体情報)の入力例はこちら

検索

新規入力(団体情報)の入力例はこちら

検索

団体名(必須)

郵便番号(必須)

住所(必須)

TEL (必須)

電子メールアドレス

ホームページ

人口

出生数

母子保健担当(必須)

北海道

宮城県

岩手県

青森県

秋田県

山形県

福島県

新潟県

富山県

石川県

福井県

滋賀県

京都府

大阪府

兵庫県

奈良県

和歌山県

鳥取県

島根県

岡山県

広島県

山口県

徳島県

香川県

愛媛県

高知県

福岡県

佐賀県

長崎県

熊本県

大分県

宮崎県

鹿児島県

沖縄県

イ. 本データベースのリニューアル

リニューアルのコンセプトは操作上の簡便性を図ることで、いかに使用者がスムーズな活用ができるかを追求した。リニューアル後のアクセス数は、確実に増加しており、目的を達成できたと思われる（以下に画面の一部とアクセス推移掲載）。

また、曜日ごとに見ていくと、平日は30件弱のアクセス数であった。

本データベースの特徴は、Web上で、都道府県・市町村・団体名・市町村規模・保健師数・課題別・キーワードなどで検索でき、取り出したい内容を出力できるシステムである。これは、実際計画を立案する際の資料としても有用であるといえる。

また、新規登録した段階でパスワードが各団体一つ発行され、その後の修正追加等はパスワードを使用するというセキュリティーシステムである。

3. 「取り組みのデータベース」の管理

提供された情報は管理サーバに保存され、管理者が団体情報・事業内容に問題等ないか確認しWeb公開する。その間3日以内としている。迅速な対応が、情報提供側、及び、活用する側にとって一番重要なことと考える。

今後の課題として、各情報に対しての何らかの評価が必要ではないかと考える。内容を把握した上で、基準を作成し、利用者側が更に必要とする

情報を得やすくなることが示唆される。

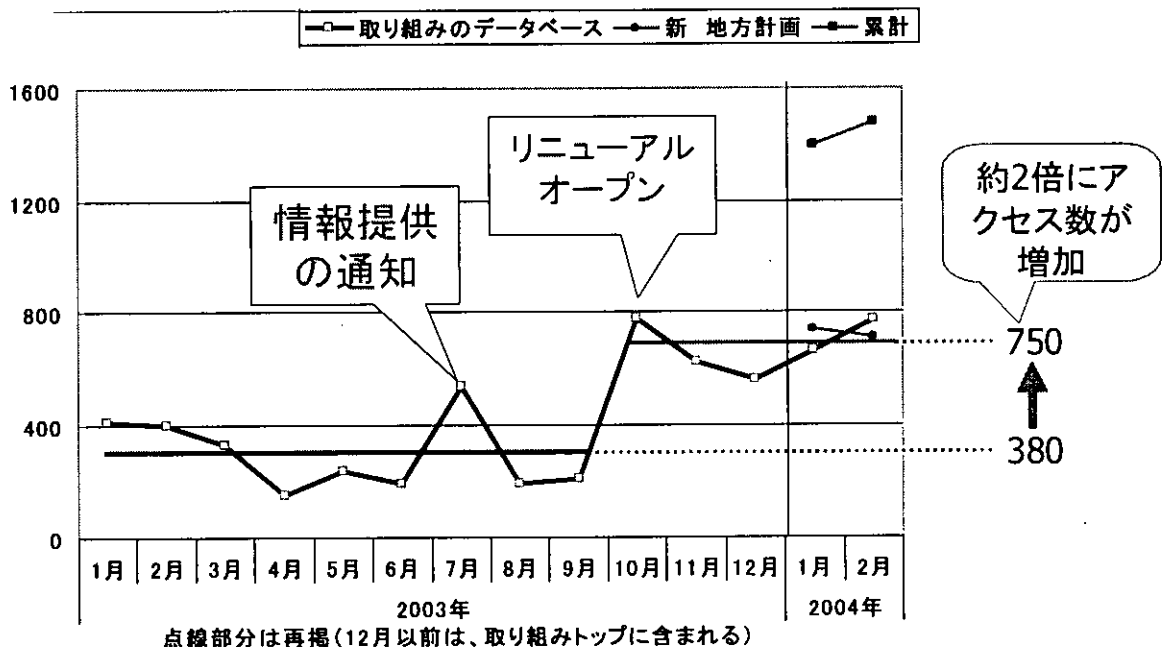
使用者側で発生する問題の多くは、団体パスワードの紛失であった。この場合は、e-milまたは、電話連絡があり、団体の確認が取れ次第、管理者で保存しているパスワードの記録から通知している。今後もこの体制は継続していく部分のひとつである。

IV. まとめ

健やか親子21取り組みのデータベースは「地域に合致した」、すなわち、地域特性を考慮した情報活用をめざしたものである。

本データベースの特徴として、利用者が自ら作り上げ、活用するものであるということから、新たなデータの入力と、既存データの修正更新を促すことや、どのように利用することによって母子保健活動に生かせるかなどの利活用の方法に関する情報の提供を行っていくかの必要があった。その一貫として、全国11箇所で開催した、データベースの研修会とインフォメーションの充実により、本データベースが導入部分で成功したといっ

てよいだろう。研修会の中で吸い上げた、母子保健関係者側の意見を含め、精度の向上を図る目的でリニューアルしたことにより、確実に利用度が上昇している現在、今後の母子保健活動にとって重要なツールとなっていくことが期待できる。



山梨県母子保健研修会 報告書

A. 開催記録

1. 集会名 母子保健研修会
2. 日時 平成14年12月24日(火) 13:00-16:00
3. 場所 山梨大学医学部看護学科教育研究棟2F 情報科学講義室
4. 対象 山梨県内の母子保健関係者
5. 講師

山縣然太朗	山梨大学医学部保健学 II 講座
長瀬 博文	富山県衛生研究所環境保健部主幹
松浦 賢長	京都教育大学衛生学研究室助教授
玉腰 浩司	名古屋大学大学院医学研究課健康社会医学専攻 社会生命科学第講座公衆衛生学講師
水谷 隆史	山梨大学医学部保健学 II 講座助手
近藤 尚己	山梨大学医学部保健学 II 講座助手
山田 七重	山梨大学医学部保健学 II 講座リサーチレジデント
薬袋 淳子	山梨大学医学部保健学 II 講座
中村 和美	山梨大学医学部保健学 II 講座
6. 主催 山梨県健康増進課
厚生科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)「地域における新しいヘルスケア・
コンサルティングシステムの構築に関する研究」研究班
(代表 山梨大学医学部保健学 II 講座 教授 山縣然太朗)
7. 内容
 - 1) 講義 「地域母子保健計画推進へのデータベースの活用」
講師 山縣然太朗
 - 2) ワークショップ 「健やか親子21 ホームページとデータベースの活用」
講師 全講師

今回の研修会では、山梨県内の母子保健関係者、27名の参加を得た。参加者の内訳は、保健所等の山梨県関連が11名、市町村が15名、学校関係者が1名であった。

C. 内容

1) 講義 「地域母子保健計画推進へのデータベースの活用」(25分)

はじめに: 健やか親子21の取り組みをきっかけに保健情報の活用方法を学んで行けたらという風に考えていただければと思う。

研究班の目的の説明: 情報集積・評価・活用を一元化したシステムの構築、システムを利用した継続的な地域マーケティングリサーチ、実際の事業展開、及びヘルスケアシステム手法のプロトタイプを提示することを目的としている。具体的な成果として、健やか親子21の公式ホームページを構築し、この12月で10万件のアクセスを達成している。順調にアクセス数が伸びている。特に力を入れているのが2つのデータベースである。

母子保健・医療情報データベースの紹介: 特にアクセス数が多いコンテンツ。前年度に構築したものである。近年10年分の母子に関する調査・研究について文献の情報をまとめてある。検索例の提示。ここでは一般の検索エンジンと違って、情報の質が評価できるような情報が掲載されている。Web上に情報がある場合はリンクしている。

取り組みのデータベースの紹介: 地域の取り組み情報をまとめたもの。これは、健やか親子21として取り組みを考える時に、特に情報がない。しかし全国の市町村では同じような課題を抱えているところがたくさんある。情報を得たい時に全国でどのような取り組みをしているのか、ということを検索したり、詳細な計画を見たりすることができる。ただ、現在検索ができるデータベースについては、2001年度に実施した調査から機械的にいれこんだものであり、中身の少ないものが多い。情報が乏しいという理由から、まだ十分に活用していただけていない。

取り組みの目標の紹介: 健やか親子21のベースラインに関する図表がダウンロードして利用してもらうことが可能になっている。

まとめ: 全体的には順調に利用者が増えているが、データベースに関してより充実させていくことがこれからの課題になっている。情報の共有ということを考える時に、情報を利用するために情報を提供することが必要であり、提供によりデータベースが充実し、充実したデータベースを自分達も有効に利用できるというシステムを認識していただきたい。

データベースの活用に関して、①データベースの重要性の普及が足りないこと、②情報を提供することの意味合いの理解が得られていないこと、③入れ方がわからないというオペレーティングの問題の3点が大きな課題としてあると思われた。今回はそこから始めていこうという主旨の研修会である。

2) ワークショップ 「健やか親子21 ホームページとデータベースの活用」(112分)

3分

- ・インターネット経験の有無の確認(大半が有り)
- ・インターネットを見るためのソフトが必要である。
- ・各自のパソコンのスイッチを入れる
- ・エクスプローラを開く(初期ページがまばら→上のバーが似た感じであれば良い)

6分(3分)

- ・アドレス入力作業
(back spaceでhttp://以外を消し、rhino.yamanashi-med.ac.jp/sukoyaka を入力)
会場: パソコンエラー1台→別パソコンへ

会場：アドレスを書いたものが配布資料になく、前のスクリーンも見えにくいため作業の遅れが見られた。

1分 (9分)

- ・お気に入りに追加の説明 (次回から URL を書かないでも良いことの説明)

3分 (10分)

- ・いろいろなコンテンツを開いてみる
- ・例として、報告書厚生労働省のサイトへのリンクの紹介と戻り方2種類の説明

会場：ホームページが消えてしまった人 一部

5分 (13分)

- ・さらにホームページ内を活用してみる
- ・検索エンジンを使用したアクセス方法の紹介 (yahoo からの検索方法)
*半角と全角の切り替えの説明 ALT キー&半角/全角キー

13分 (18分)

会場：作業 (純粋な作業時間 各講師が説明)

*データベース2種を主に活用していた

*PDF ファイルを開いてフリーズしたケースが多くみられた

4分 (31分)

- ・データベースの活用について

会場：説明画面と自分の画面が違う人がおり、待つ時間が必要

3分 (35分)

- ・これから使う取り組みのデータベース入力の手順の説明 まずスタート画面へ
- ・新規入力画面が開けたかどうかの確認
- ・新規登録と追加登録の場合の手順の違いの説明

5分 (37分)

- ・新規入力の場合の説明
 - ・追加入力の場合のパスワード入力説明
- 会場：大文字でパスワードを打ち込むことができない人がいる
- ・SHIFT キー&CAPSLOCK キーの切り替えの説明

1分 (42分)

- ・新規入力の場合、区分の入力説明
(追加入力の場合は、個別に説明)

4分 (43分)

- ・団体名の入力説明
- ・センターの場合、〇〇課まで入れた方がいい

3分 (47分)

- ・必須入力項目の説明 郵便番号、住所等入力する
- 会場：オートコンプリートが出て来る→いいえ→消える
- ・Tab キーの説明 順番に進むことを説明

3分 (50分)

- ・ ①今日入力したものは出ないこと、②わからない項目は入れなくても良いこと、③ただし必須項目には何かをいれないと進まないことを説明

3分 (53分)

- ・ 調査日は西暦がベター。スラッシュで区切りながら入力

1分 (56分)

- ・ エラー画面の説明。必須項目に漏れがあると先に進まないこと、適当な文字を入れて先に進むことを説明。

1分 (57分)

- ・ オートコンプリートの説明。いいえと押すと消えてしまうので、はい、と押す。オートコンプリートとはコンピュータが先読みすることと説明。

2分 (58分)

- ・ 次画面の説明。事業名等の入力。
- ・ 持参したファイルを使用して、入力する方法の説明。

7分 (60分)

会場：ファイルの設定、コピーペースト作業

*テキスト以外で持ってきている人の確認→受付時にテキスト化済み

- ・ 検索をした人が事業内容をわかるように、という視点が大事であることを説明。
- ・ 個別説明：いくらでも修正が可能であることの説明。(データベース入力・公開・修正等、全体の行程がわかっていないと理解は難しい)

会場：個別作業

4分 (67分)

- ・ 課題、目的、背景、予算、予算源等の入力の説明。(未公開項目の選択方法の説明)

3分 (71分)

- ・ 書き間違えた場合、コピーペーストで別の欄に移動できることの説明
- ・ 利用料の入力の説明。

4分 (74分)

- ・ 対象の入力の説明。
- ・ 予算源等、複数ある場合はカンマで切って入力することを説明。

会場：プリンターの使用時に紙がない、接続ミス等のエラーがあり、印刷できない。

4分 (78分)

- ・ 慌ててリターンキーを2回続けて押すと前のページに戻ってしまうので、ゆっくりやってほしい。
- ・ やりにくい部分があったらスタッフに伝えて欲しい
- ・ 提案者の入力の説明

会場の声：今日、夕方帰ってやってみようと思ってもできないのか？(公開・修正行程が見えていないことによる)

2分 (82分)

- ・ 公開・非公開の入力の説明
- ・ 入力項目の確認画面
- ・ キーワード入力の説明

5分 (84分)

- ・ web への掲載欄の説明 これがないと検索しても引っかかってこない。今のところ、上の許可が得られていないという場合は不許可にしておくが、将来的に掲載可にして欲しい。
- ・ 登録ボタンの説明
- ・ 修正はいくらでもできることを説明
- ・ 登録しました、という画面でとめる。大事な画面で事業名とパスワードが出るので、印刷するか、正確に書きとめておいて欲しい。この際大文字であることに注意する。

会場：印刷エラーあり

会場：飲み物配布

2分 (89分)

- ・ この後続けて登録したい場合と、終わる場合を選択することを説明する。
- ・ パスワードを控え忘れた場合には問い合わせてもらえば、対処が可能であることを説明。

1分 (91分)

- ・ 休憩、トイレの場所の説明

5分 (92分)

- ・ 今後の行程として2種類がある。①修正したい場合は、公開の手続きをこちらであれば、修正が可能になる。②もう一つは公開が自分だけでは判断できないという場合は、web掲載しないを選んでもらう。この場合データは宙に浮くので、皆さんには修正ができない。公開が可能になった場合は管理者まで連絡をもらい、登録の手続きをすることになる。
- ・ 1度登録したとしても、それを参加者が削除することも可能であることを伝える。

11分 (97分)

休憩

4分 (108分)

- ・ 管理画面で今日入力された一覧、詳細画面を表示。(新規入力、追加入力分)
- ・ Web掲載可、ということであれば、これを登録することになる。
- ・ 今日の内容は、データベースがあること、ホームページの説明、入力方法の説明
- ・ web掲載可になれば公開して、修正部分があれば、修正していただいて完成させる。もしくはちょっとだけでも公開したくない場合は申し出て欲しい旨、伝える。

3) ディスカッション (10分)

ホームページでわかりにくい部分を教えて欲しい→挙手なし

忌憚のないご意見を感想用紙に書いてもらいたい。

今日取り組みのデータベースの必要性について理解できた方の把握

入力をしてみて、データベースを活用してみたいと思った方の把握

入力のオペレーティングに関して、改善していきたいと思う。

会場より：インターネットを開くことが日常あまりできなかったのが、今日はゆっくりできて良かった。今後活用していきたい。

- ・ インターネットによる情報収集→職場で理解が得られる、周知されている
- ・ 今調べたいものをすぐに調べることができるパソコン環境にあるか→ほぼある
- ・ 仕事で個人のメールを使える環境にあるか→ほぼ整っている
- ・ 現場レベルで情報を回していこうというシステムがあるといいと思うが、メーリングリストがしいなあ、という方→大勢

- ・こんなことができたらいいなあ、ということが具現化できるツールとして IT があるのではないかと思う。ML は是非実現し、活用していただければと思う。

会場：感想用紙の記入

4) まとめ (5分)

市町村の事業は、けして公開されないものではなく、むしろ公開して、自分の地域でこんなことをしていると住民に説明する責任があるものである。そのツールにしていければと思っている。上司の理解が得られない時の解決策なども ML の運用等で意見交換していければと思う。

- ・講師感想
- ・伝達事項：配布した CDRW の説明、フロッピーディスクの持ち帰りアナウンス

15:55 研修会終了

D 研修会の評価

1) データベースの充実

この日の研修会で新たに登録されたデータは全部で 47 件であった。その内、6 件はそのまま公開、41 件は保留となった。

2) 参加者の感想

E 研修会のふりかえり

1) 時間の流れの確認

- 13:20 挨拶・講義 (30分)
- 13:50 ワークショップ開始 (35分)
- 14:25 データベース入力 (60分)
- 14:25 休憩 (10分)
- 15:35 ディスカッションとまとめ (15分)
- 15:55 終了

2) プログラムについて

①全角/半角の切り替えの説明

「ALT キー+半角/全角キー」で統一する

②健やか親子 21 ホームページに行く方法

今回は、直接入力で行ったが、そこでもたつきがでてしまった。

Yahoo から検索していくようにする方が良い

③アドレスの確認をする

表示されたホームページの意味を理解するためにも、アドレスを確認させる事が大切

④ホームページの内容紹介 取り組みの目標値について

便利さを紹介するために、エクセルファイルに落とせる部分を解説する

⑤ホームページを実際に使ってみる

i 最新情報

ii 母子保健・医療データベースについて

*ここで「戻る」作業の確認をする

またデータベースを実際に使ってみたり、別ウインドウで開く場合を経験してもらう

*基本としてはブラウザの「戻る」で戻ることとする。戻れなくなったら、×をクリックする

⑥データベース入力・追加・修正

A. 入力作業について

今回は新規と追加の場合があったので、そこで作業がばらついた

最初に、基本情報を登録しておき、全て追加として入力させるのはどうか

問題点①既存の団体を新規として登録したら2重登録できてしまった。後で確認したところ、やはり2つのパスワードが発生していた

→回避策：入力をはじめる際には、とにかく、まず、既に登録されていないかを確認する行程を設ける

問題点②同一団体から複数参加の場合、2人で新規入力すると、2団体分のパスワードが発生してしまう

→回避策：複数参加で新規入力させる場合は、基本情報の部分は一人で入力してもらう

B. 教え方について

・司会が状況を把握したい時、各スタッフが応えると良いのではないか

・一説明に一行動というより、ある程度まとめて10分程度説明してから、行動させる（つまり三説明に三行動位）方が良いのではないか

C. 受講者のレベル分けについて

・レベル分けのために以下のような質問をするのが良いのではないか

「半角・全角を切り換えられますか」

「メールを使っていますか」

・前日に調査し、グループ分けをしておく

D. 持参データについて

・基本的にはどんなファイルでも読めるようにコンバーター等用意する方向が良い

・持ち寄るデータについての説明が今回は不足していたが、次回は改善済み

E. 入力後の説明

・登録からweb公開までの流れのフローチャートが必要

⑦まとめの内容

・一時的な公開をして、今日の成果を確認してもらう方が良いのではないか

→公開したくない場合は、その旨終了時に申し出てもらう

i 入力データの一覧を見る

自分が入力したデータを実際に検索し、Web上で見ることを体感する

ii 隣の市町村のデータを検索してみる

最初はわからなかった他地域の状況が把握できることを体感する

iii 人口や保健師数で検索してみる

自分と似た地域の取り組みを把握し、DBの活用方法を体感する

・スタッフが入力作業から、データベースの改善点を吸い上げて代弁する

・参加者からは、現場での活用につながるような感想を引き出せると良い

・研修修了書を出すのが良いのではないか

⑧その他

・1か月後のデータベース活用状況によって評価するのはどうか

・メーリングリストを山梨・富山で始めて行くことが良い

課題整理

* DB 再構築関連

パスワードの簡易化

登録したら、修正や削除ができない→登録から修正、公開までの流れをわかりやすくする

修正しにくい→一覧で修正できるように

提供者の選択肢の見直し

説明画面の充実

追加項目の検討：設定曜日、時間帯、参加人数、スタッフ、苦労点等

* 研修会関連

ホームページのアドレスを資料に書いておく

レベル分けのための調査票作成

研修修了書の準備

プリンターの準備

登録から web 公開までの流れのフローチャート作成

追加入力に統一すると、事前に参加団体の基本情報の登録及びパスワードの印刷が必要（追加のメリット：パスワード入力の基礎になる。新規：全体が見えやすい）

ブラウザの戻る、の考え方 登録した後で戻って修正して再登録できてしまう→戻らないように閉じる

オートコンプリート対応

公開・削除・修正等についての説明

* 保留

公開許可の問題

全国的な登録がないと活用できない

学校保健情報の取り入れ

メーリングリストの構築

パスワードさえもらいたくない参加者がいる

以上

富山県砺波地域母子保健研修会 報告書

A. 開催記録

1. 集会名 母子保健計画研修会（母子保健評価事業）
～住民の意見をもとに、地域母子保健課題を把握する体験と
データベース活用方法の習得研修～
2. 日時 平成15年1月20日（月）9：30～16：00、平成15年1月21日（火）9：30～12：30
3. 場所 富山県砺波市 砺波地域職業訓練センター 20日視聴覚室、
21日第4教室（パソコン室）
4. 対象 管内市町村保健師及び予算作成担当者、並びに厚生センター保健師等
5. 講師
山縣然太朗 山梨大学医学部保健学 II 講座
長瀬 博文 富山県衛生研究所環境保健部主幹
松浦 賢長 京都教育大学衛生学研究室助教授
玉腰 浩司 名古屋大学大学院医学研究課健康社会医学専攻
社会生命科学第講座公衆衛生学講師
近藤 尚己 山梨大学医学部保健学 II 講座助手
薬袋 淳子 山梨大学医学部保健学 II 講座
中村 和美 山梨大学医学部保健学 II 講座
6. 主催 厚生科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）「地域における新しいヘルス
ケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究」研究班
（主任研究者 山梨大学医学部保健学 II 講座 教授 山縣然太朗）
7. 内容 1日目
午前：講義とグループワーク「住民の意見をもとに指標をつくろう（健やか親子21を
ふまえた母子保健計画見直しの実際）」
午後：グループワーク「住民の意見をもとに指標をつくろう」（グループワークのテーマ：
子育て支援）

2日目

午前：講義「データベースってすごい！」

演習「取り組みのデータベースの活用方法」



B. 概要

今回の研修会では、管内の母子保健関係者、25名（1日目24名、2日目21名）の参加を得た。

C. 内容

1日目

午前：講義とグループワーク（GW）

- ① 講義1（9：30～10：10（40））健やか親子21をふまえた母子保健計画の見直しとは、本日すること（ブレインストーミング）の説明。古新聞を例にグループワーク（自己紹介を含む）をし、班ごとに発表する。
- ② グループワーク1（10：10～10：25（15））ブレインストーミング（子育て支援の課題）。グループ内で担当者（書記、発表者、司会）を決める。
- ③ 発表1（10：25～10：40）OHPを使つてのグループ発表。
- ④ 講義2（10：40～10：50）住民の意見集約の方法（住民の塩パワー面と）
- ⑤ GW2（10：50～11：30（40））「親の育児能力の低下」にかんする認知的な項目の列挙と整理（KJ法による整理）
- ⑥ 発表2（11：30～11：50）グループ発表（各グループ3分）
- ⑦ 講義3（11：50～12：00）課題の根拠と優先順位のつけ方（二次元展開法）
- ⑧ GW3（12：00～1：15（75））具体的な項目の根拠の検討と優先順位の決定（昼食含む）

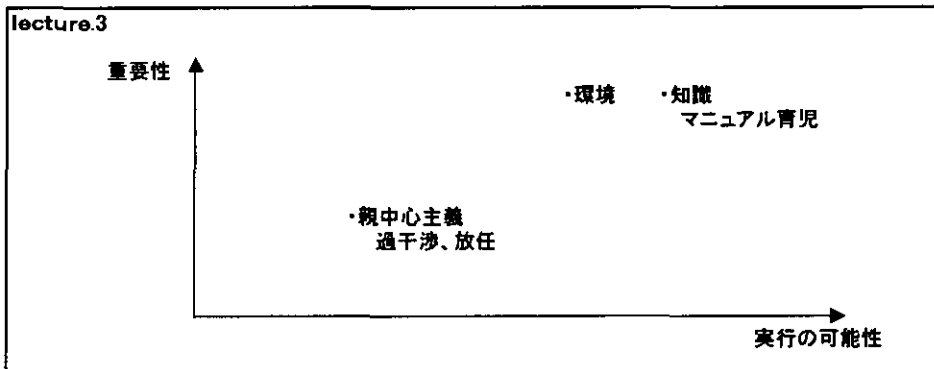
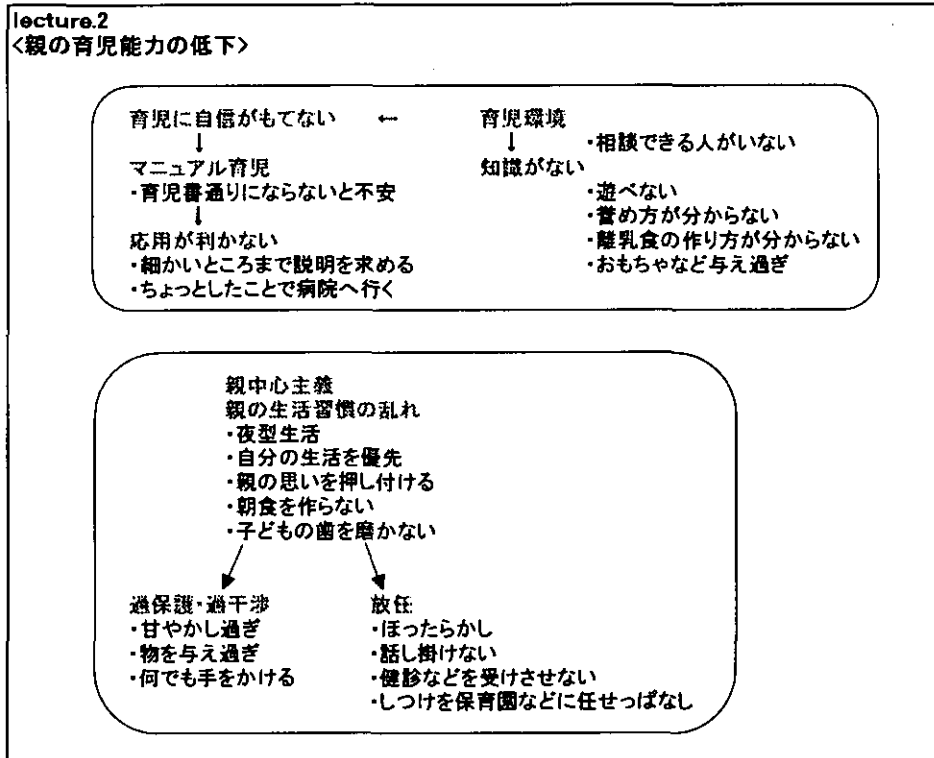
午後：講義とグループワーク

- ⑨ 発表3（13：15～13：50（35））各班ごと発表。質疑応答有り
- ⑩ 講義4（13：50～14：15（25））計画策定の必要性、計画策定の方法、評価指標の立て方
- ⑪ GW4（14：15～14：55（40））「親の育児能力の低下」対策の基本計画策定
- ⑫ 発表4（14：55～15：10（15））グループ発表
- ⑬ 講義5（15：10～15：15（5））企画書の作製の基本
- ⑭ GW5（15：15～15：40（25））「親の育児能力低下対策」実施計画企画書の作成
- ⑮ 発表5（15：42～16：15（33））グループ発表と評価
- ⑯ まとめ（16：15～16：22（7））まとめ講義。投票→回収
- ⑰ 感想（16：22～）講師より感想。アンケート記入

【1班】

lecture.1
 <子育て支援の課題>
 ・マンパワーの不足
 ・心理相談員等 ・健診
 ・情報交換の場が少ない
 ・物理的な場 ・運営していく人
 ・一時的に見てもらえる場が少ない
 ・父親の参加 ・育児休暇がとれない
 ・病気など急に必要な場合
 ・虐待・早期発見
 ・障害児について
 ・受け入れの場
 ・専門的な施設が少ない
 ・相談できる場が少ない
 ・近所付き合い
 ・アパート住まいなど孤立
 ・祖父母との関係

【OHPを使った各グループの発表】



lecture.4

<目的> 自信を持って育児親の育児能力の低下対策の計画
 <目的を達成するための取組> 目的…育児を楽しめる、楽しくできる
 ①正しい知識を与える ①正しい知識を伝える
 ②情報交換の場の提供 ②目標を達成するための取り組み
 ③父親の教育 ③いつでもどこでも相談
 ④相談できる場、人

lecture.5
 みんな集まれ～

<目的> 母親同士の交流
 期待できる効果
 ・育児に自信が持てる
 ・情報の整理活用ができる

<内容>
 日時:毎月 第3土 AM10:00～11:30
 場所:地区公民館
 対象:未就園児及びその保護者
 スタッフ:保健師、母推、保育士、ボランティア等
 内容:母親は座談会
 児はボランティアにて手遊び、手作りおもちゃ、アニメ等
 費用:おやつ代、人件費、おもちゃ、ボランティア謝礼
 評価:アンケート(満足度、自信が持てる人の増加)

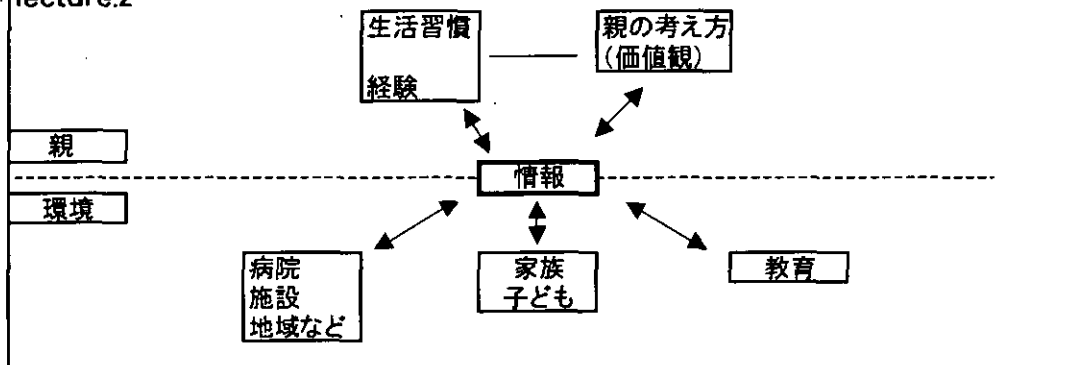
《2班》

lecture.1

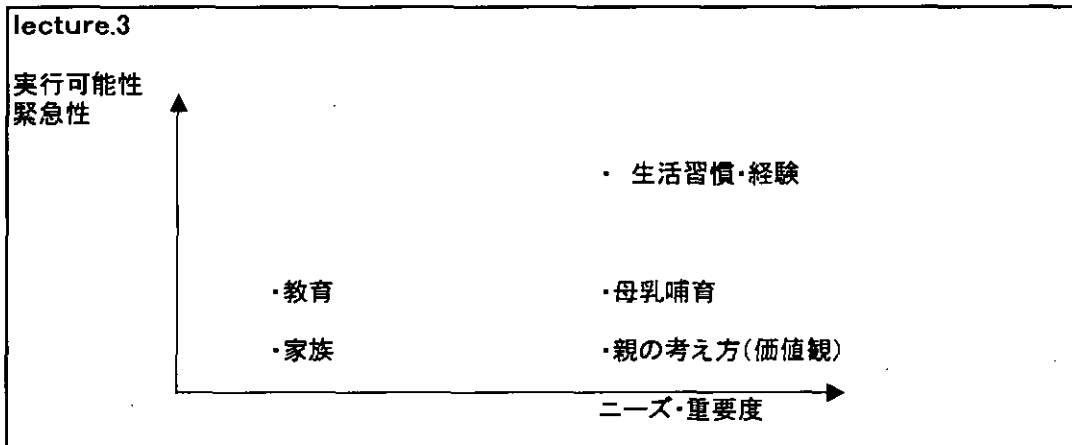
環境

- ・育児休業等とりにくい
- ・育児を母親に任せきり(専業主婦)
- ・若い母親(若い夫婦)→親としての自覚
- ・近所に同年代の子どもがいない
- ・兄弟が少ない
- ・核家族→嫁姑の問題
- ・シングルマザーへの支援
- ・家族との意見の違い
- ・母親の相談相手が少ない
- ・母親は仕事と育児で余裕がない
- ・地域に子どもがいない
(遊び仲間がいない)
- ・遊ぶ場所がない
- ・家に閉じこもってしまう
- ・公園デビュー
- ・しつけ
- ・学習塾
- ・考えなくても遊べるおもちゃが多い
- ・物が溢れている
- ・育児情報が溢れている
(どれを選べいいか分からない)
- ・マニュアル標準を求める人が多い
(応用がきかない)
- ・肥満児の増加
- ・小児の生活習慣が乱れている
(両親の生活の乱れ→夜型)
- ・父親への育児教室があれば良い
- ・多胎児への支援が少ない

lecture.2



lecture.3



lecture.4

- 1.目的
 - ・親の生活習慣を改善することで、子どものよい生活習慣について考え実行できる
- 2.取り組み
 - ・ライフステージごとの教育と学習
 - ・実態把握
 - ・既存組織の活用
- 3.3つのレベル
 - ・朝ご飯を食べる人の割合が増える
 - ・肥満児(者)の割合が減る
 - ・自主グループ(学習会)が増える
 - ・生活習慣病の罹患率が減る

lecture.5

「ライフステージごとの教育と学習」

キャッチフレーズ あなたが変われば子も変わる
 目的 正しい生活習慣を身に付ける。
 期待される効果 地域の子育て能力が高まる。
 内容



教育と学習(勉強会)

- ・住民が学びとれるようなもの
 - ・体験者などがアドバイザー
- 費用: 報償費、消耗品

(3班)

lecture.1

子育て支援の課題

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を食べさせない ・子どもとどう遊んでいいかわからない ・虐待 ・具体的な育児方法がわからない ・精検を勧めても拒否する ・情報の取り方がわからない ・核家族、共働き ・食べればよいとだけ考えている ・小児肥満、生活習慣病予備 ・親自身友達になれない ・ビデオやTVばかり見せている ・余裕(気持ち)のないお母さん ・近所付き合いの稀薄 ・他の子どもへの関心低い | <ul style="list-style-type: none"> ・料理を作れない ・子どもが好きになれない ・育児休暇が充分にとれない ・家族の中で子どもへの意見が食い違う ・夜型生活 ・住所を定めない、住所あるのにいない ・シングルマザー、未婚、離婚 ・親になりきれない ・自分の事を最優先している ・お金だけ与えて放置 ・子どもと対峙する事ができない ・子どもの要求通りさせている ・先取りしてしまう、会話にならない ・歯を磨かない、歯医者に連れて行かない |
|--|---|

lecture.2

子どもの養育環境

- 親を取り巻く環境
- ・核家族
 - ・共働き
 - ・気持ちに余裕がない
 - ・家族内の意見相違
- 近所からの支援がない
- ・近所づきあいの希薄化
 - ・他の子どもへの関心が低い

具体的な育児の仕方がわからない

- ・情報の取り方がわからない
- ・子どもとの遊び方がわからない
- ・具体的な育児方法がわからない
- ・親自身が友達を作れない
- ・子どもと会話にならない
- 先取りしてしまう
- ・子どもと対峙することができない
- ・料理が作れない

親自身の問題

- ・子どもが好きになれない
- ・精検を勧めるが拒否
- ・親になりきれない
- ・夜型生活
- ・自分(親)のことを最優先

不適切な育児

- ・子どもの要求通りにさせている
- ・ビデオ、テレビばかり見せている
- ・お金だけ与えて放置
- ・子どもの歯を磨かない
- ・朝食を食べさせない

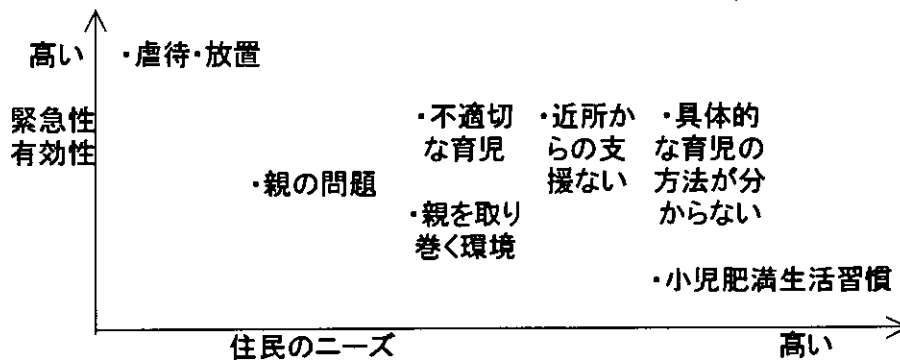
放置、虐待

- ・虐待
- ・歯医者に連れていけない

小児肥満

(生活習慣予備軍)

lecture.3



根拠

1. アンケートから

- ・育児に自信をもてなくなることがあり
- ・育児が煩わしい、イライラする
- ・育児方針の違い

3. 関連がある

- ・子どもの養育環境と親自身の問題から具体的な育児の仕方が分からない

2

- ・育児相談、乳幼児健診等から具体的な保護者の言葉として保健師が感じているところ

lecture.4

親の育児能力低下対策基本計画 対策班

<目的>

父母が具体的な育児方法を身につけ、実行できる

<目標>

1. 自信がないと訴える母の減少
2. 子どもと楽しく遊べる時間が持てる親の増加
3. 育児について話し合える人(友人・知人・家族)の増加

<具体的な取り組み>

啓発普及→ ケーブルTV・インターネット・パンフレット等

場の提供→ 乳幼児健診・予防接種・育児教室

育児サロン(開放型・固定型・保育園・幼稚園)・電話

訪問→ 保健師・母子保健推進員など

lecture.5

企画書 …育児サロン… いっしょにあそぼ!

<目的> 両親が楽しんで自信を持って育児ができる

<期待される効果>

- ① 自分の育児に自信が持てる
- ② 育児について話ができる人が持てる
- ③ 育児についてワンポイントアドバイスが受けられる
- ④ 他の人の育児を見て、聞いて、確認できる

<内容> ① 時期…15年度 月2回 午前10:00(受け付け9:30~)~11:30

② 場所…保健センター

③ スタッフ…保健師・保育士・栄養士・ボランティア・児童厚生員

④ 対象…未就園児とその保護者

⑤ 実施内容…(親子遊び) 家でできる事と集まったからできる事
(座談会) 母を褒める場・モデルを示す場
(計測・個別相談)

《4班》

lecture.1

子どもの問題

- ・育てにくい
- ・障害がある
- ・多胎児・低体重児
- ・望まない親の子

本人の問題

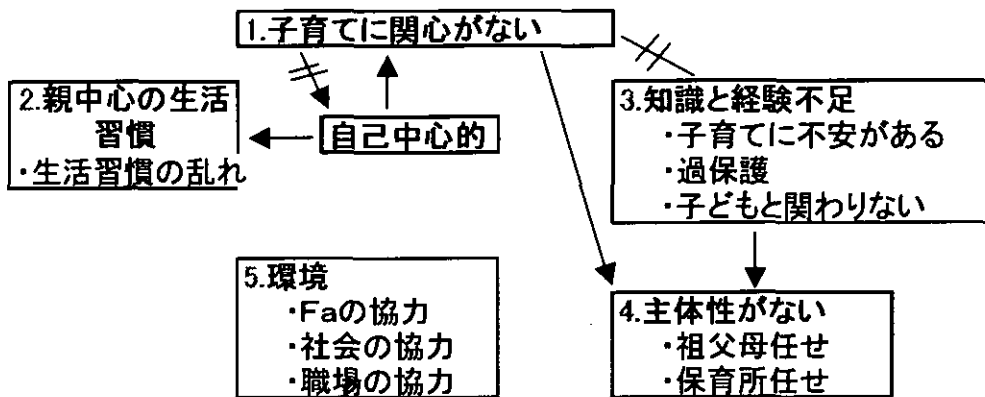
親・・・育児能力の低下・おばあちゃんに任せ切り・親が情報収集しない・身勝手・自己中心・料理ができない

〈サポート〉

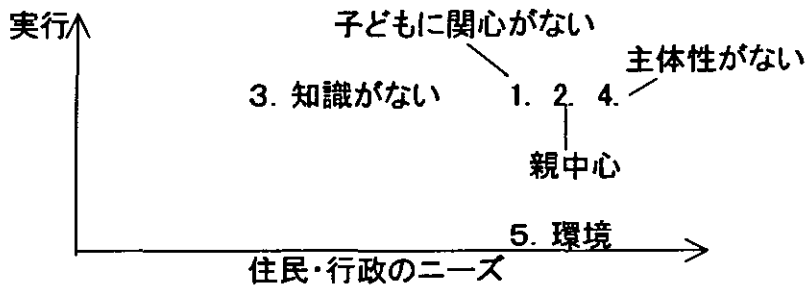
- 病気になった時の対応とれない
- 医療・保育所・地域・職場の理解がない
- 周りのサポート・制度がない
- 父の育児参加
- 友人がいない・仲間づくりができない・公園デビューができない
- 人と関わらない
- 外国人妻や転入して来た時の対応がとれない

lecture.2

【 子育てに関心がない】



lecture.3



lecture.4

親中心の生活

<目的>

子の心身の成長発達を促すために親の生活習慣を改善する

<取り組み>

行政サービスの整備

- ・土、日健診
- ・いつでも個別予防接種OK

教育・啓発

- ・生活、意識実態調査
- ・食改、母推、保育所、小・中学校等
連携して住民主体の生活習慣改善
- ・親子のふれあい教室
遊びの体験
- ・保育所等の行事に合わせて連携

生活・意識実態調査

<目標達成>

(保健水準)	肥満度	生活習慣病罹患率
(住民行動)	食事	睡眠時間
(行政の取り組み)	教室の参加率	実施率 継続率

lecture.5

『親中心の生活』教育・啓発編

親子ふれあい教室

キャッチフレーズ

目的

期待される効果

具体的な内容

【ふれあい(ハート)愛】 パパママいっしょにあそぼ
子どものふれあい遊びを通して子どもを知る
生活習慣改善の必要性に気付く
いつ…土、日曜日 1クール3回
どこで…地区公民館や児童館、小学校
誰が…保健師、ピア、地区組織
誰に…幼児と保護者(1歳半～3歳児)
何をする…生活リズムの大切さを講義(ピアの活用)
ふれあい遊びタイム「季節と土地の遊び」
座談会、手作りおやつ
費用…PR代(用紙)、遊び材料、材料代(おやつ・食事材料代)
5万円程度

評価

(保健水準)	肥満度・生活習慣病罹患率
(住民行動)	8時以降の外出回数が減る 朝食欠食を少なくする 睡眠不足を感じている人を減らす
(行政の取り組み)	